

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(名張青峰高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		新時代をたくましく生き抜く未来人を育てる学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	学力と社会への参画力をともにそなえ、新時代をたくましく生き抜く生徒 [育む3つの力] ○未来を拓く力:「自立」 自己実現・進路実現を図ることができる力 ○グローバル化社会で活躍する力:「創造」 グローバルな視点で意思決定・意思疎通を行い、情報を利活用できる力 ○人とつながる力:「共生」 相互に理解し合えるコミュニケーション力、社会に参画できる力
	ありたい教職員の姿	生徒をあたたく受容し支える「丁寧な教育」と、生徒に課題を示して壁を乗り越えさせる「鍛える教育」の両面を、場面や役割に応じて的確に展開し、「グラデュエーション・ポリシー」の実現を図る教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 名張青峰高校に進学した理由(R5入学後アンケートより) 本人の成績(39.4%),卒業後の進路を考えて(28.0%), 高校生活入門講座(11.4%) <保護者> 名張青峰高校に期待すること(R5夏の保護者アンケートより) 学力の向上(55.9%),希望進路の実現(65.4%),授業内容の充実(43.5%)	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<中学校> 多様な進路が選べる学校 文武両道で頑張る学校 ICT教育の先進校 <地域> 名張市内唯一の普通科高校としての学力や進路の保障。魅力のある高校としての情報発信(評価委員会等より)	<中学校> 基礎学力等の学習指導 基本的生活習慣等の生徒指導 <地域> 学校の活動への理解 地域における生徒の見守り 生徒が活躍する場の提供
(3)前年度の学校関係者評価など		○青峰高校のICTの優位性は低くなってきている。オンライン教育やグローバル教育の優位性をもっとアピールしていく。また、HPでの情報発信を充実させる。 ○生徒の進路実現のため、本校卒業生話を聞く機会を増加させる。 ○教職員のゆとりのため、さらなる働き方改革を推進する。	
(4)現状と課題	教育活動	○生徒の進路希望の実現に向けてきめ細やかな進路指導を行っているが、新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、生徒一人ひとりの学力を向上させるための深い学びを実現する質の高い授業の構築をすべての教育活動で行う必要がある。 ○学校全体として人権・同和教育や生徒指導の立場からも生徒の学力・進路保障の取組を行っているが、グローバル社会で必要とされる人権感覚の育成や学習習慣も含めた生活習慣の確立をより効果的に図る必要がある。	
	学校運営等	○入学定員を充足するために、地元の中学生から選ばれ続ける学校として、特色や魅力をより顕在化させ発信する必要がある。 ○従来からの慣行に囚われることなく、教育課程や年間行事の見直し、部活動や各種委員会の精選を大胆に進め、教職員のリソースを必要な個所に集中させる必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○未来を拓く力の育成:「自立」 3年間にわたる体系的な探究学習を通して、キャリア教育の充実と生徒の進路に係る様々な情報の集積・活用を図り、四年制大学・短期大学・専門学校・就職など幅広い進路希望を実現する。 ○グローバル化社会で活躍する力の養成:「創造」 伝統あるグローバル教育と充実した ICT 環境を活用した教育を基に、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成するための授業を推進する。 ○人とつながる力の陶冶:「共生」 学習活動と部活動の両立をはじめ、健全な学校生活を送ることができるよう基本的な生活習慣を確立させるとともに、助け合い、励まし合い、高め合う集団づくりを通して命を大切にする心や思いやりの心などの倫理観、規範意識、社会性を育成する。
学校運営等	○選ばれ続ける学校づくりの推進 中学生をはじめ地域から積極的に選ばれ続ける学校となるよう、学校の特色化を進め魅力のある教育内容を創造する。また、積極的な情報発信、地域の関係機関との連携・協力を推進し、地域に対する学校のブランド力の強化を進める。 ○生徒のための教職員組織づくり 教職員が生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、目的・目標とそれらを達成するための手段を共有して主体的に実践できる教職員組織づくりを進めるとともに、安全・安心で心身ともに健康的な生活を送ることのできる職場づくりを行う。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	(普通科) ○高校生活にしっかりとした目的意識をもっている者 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動または人権活動等に意欲的に取り組める者 ○上級学校への明確な志望動機をもち、各教科の学習に意欲的に取り組める者(文理探究コース) ○国公立大学や難関私立大学等への明確な志望動機をもち、各教科の学習に意欲的に取り組める者
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○未来を拓く力の育成	(1)自学自習の習慣付け (2)確かな学力の定着 【活動指標】 ○平日平均学習時間 120 分以上 ○授業時間の確保 1単位あたり 30 単位時間以上 【成果指標】 ○学習到達度B段階以上(2年次 11 月時点) 100 人以上	【活動指標】 ○1年次:平日66分 2年次: 未来創造:平日50分・休日76分 文理探究:平日90分・休日138分 3年次: 全 体:平日122分・休日192分 文理探究:平日168分・休日263分 ○平均27単位時間	◎

	○国公立大学合格者数 25人以上	【成果指標】 ○74人 ○出願21人中合格3人	
○グローバル化社会で活躍する力の育成	(1)教職員間での情報共有 (2)授業力の向上 【活動指標】 ○教職員間の授業見学 年2回以上 ○授業の改善に資する研修会への参加 一人1回以上 (オンラインによる研修会も含む) 【成果指標】 ○授業で3側面(知識技能、思考力判断力表現力、主体的態度)の向上を感じた生徒割合 90%以上 ○協働学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 100%	【活動指標】 ○2回実施 ○4人1回未満 【成果指標】 ○知・技 91%、思・判・表 90%、主・態 83%(平均88%) ○100%	※
○人とつながる力の育成	(1)生徒のコミュニケーション力の育成 (2)自己肯定感の涵養 【活動指標】 ○人とつながる力を育む講演会・研修会の開催 生徒年間3回以上、教職員年間3回以上 【成果指標】 ○社会性のある行動や思いやりのある行動を心掛ける生徒割合 95%以上 ○人権が尊重されていると感じている生徒割合 90%以上	【活動指標】 ○生徒・教職員ともに3回実施 【成果指標】 ○1年次:95.7% 2年次:97.7% 3年次:93.2% ○1年次:98.1% 2年次:95.3% 3年次:96.9%	◎
改善課題			
○学習時間が減少しており、学力も伸び悩んでいることが課題である。生成 AI 等を活用した ICT 学習が進むに従い、生徒の学習への意識も「量から質」「時間より効率」へと変化している。次年度は、学習到達度テスト「学びの基礎診断」で3教科の結果を底上げできる取組をしたい。 ○挨拶ができない、人間関係に悩みがあるという生徒が多数いることが課題である。「毎日が人権教育である」という意識を持って学習を進めることで、挨拶や協調性等、社会生活を営む上で欠かせない人間力を育んでいく必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○選ばれ続ける学校づくりの推進	(1)魅力的な学校づくり (2)地域との協同 【活動指標】 ○高校生活入門講座等への申込者数 500 名以上 ○多様な方法による情報発信 40 件以上 【成果指標】 ○三重県立高等学校進学希望状況(12 月)の本校希望者数 240 名以上	【活動指標】 ○高校生活入門講座 9/28 の申込者数 418 名、10/3、17 のミニ講座の申込者数 38 名 ○82 件(2/20 現在) 【成果指標】 ○230 人(12/13 調査)	※
○生徒のための教職員組織づくり	(1)総労働時間の縮減 (2)規範意識の向上 【活動指標】 ○コンプライアンスミーティング 年 2 回以上 ○設定した日の定時に退校できた職員の割合 90% 以上 ○予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ○放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 80% 以上 【成果指標】 ○1 人当たりの月平均時間外労働 18 時間以下 ○年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 ○月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 ○1 人当たりの年間休暇取得日数 21 日以上	【活動指標】 ○3 回 ○98% ○100% ○80% 【成果指標】 ○21.5 時間 ○7 人 ○37 人 ○15.8 日	◎

改善課題

- 本校への進学希望者数について、12 月段階では達成できなかったが、後期選抜では定員を上回る受験生を集めることができた。中学校での説明会や高校生活入門講座の開催だけでなく、本校ホームページでの情報発信やマスコミへの情報提供を強化していく必要がある。
- 今年度も教員の働き方には課題が残った。一部の教員に仕事が偏ることのないよう各分掌で業務内容を見直し、精選をしたうえで分担していきたい。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○地域の進学校として、国公立大学を目指す生徒を育成する取組が必要である。 ○「総合的な探究の時間」だけでなく、授業内でも探究学習やプレゼンテーションの機会を増やし、自己の課題に応じた学習ができる学校をアピールするべきである。 ○学校での取組を保護者や地域の人にアピールする機会を増やし、生徒の自己肯定感を高めてほしい。
---------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○地域の進学校として、生徒の希望を実現できる進路保障を行い、地域で活躍できる人材を育成する取組を行う。 ○ICT の活用と両輪で、生徒の考える時間を確保する授業を通じて、想像力や表現力を高める教育活動を行う。
学校運営についての改善策	○学校ホームページや Instagram を通じて、生徒の活躍を発信する広報活動を充実させ、中学生から選んでもらえる学校づくりを進める。 ○スクールサポートスタッフや部活動指導員、運動部サポーター等の派遣事業を活用して働き方改革を進め、教員がやりがいを持って働ける職場づくりを進める。